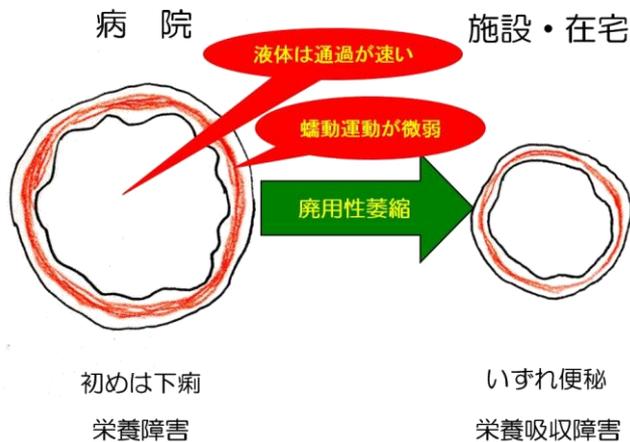




生命にかかわる「誤嚥性肺炎」を予防 食べられる喜びを一人でも多くの人に 訪問歯科センター NEWS LETTER

平成30年 冬号
川西市歯科医師会立訪問歯科センター
協力(一社)TOUCH
<http://www.touch-sss.net/>
住所:川西市火打 1-1-7
TEL:072-757-0418
FAX:072-764-6480



「舘村 卓著：摂食嚥下障害のケアとケア 第二版（医歯薬出版）ならびに舘村 卓著：口腔ケアプログラムの作り方（永末書店）より」

肉で行われるため、運動しない消化管の筋肉は長期経過すると痩せてきます。（これを廃用性と呼びます。図左から右に変化します）その結果、液体の栄養剤を使っているのに便秘となり、浣腸や下剤が必要になることもあります。このような症状は、軟らかい食事でも発生します。このような状態になると、どのようなことが待っているのでしょうか？次号『消化管活動が低下すると体に何が起きるの？』で解説します。ご期待ください。

●なぜ、

口から食べないといけないの？●●

医療上の事情で口から食事が摂れない場合、液体の栄養剤が消化管に注入されます。液体の栄養剤は消化管を速く通過するため、使用開始直後は下痢になります。下痢になると栄養剤は消化管に短時間しか留まらず、栄養成分は十分に吸収されません。また、身体は「必要がなければ働かない」ため、消化管の蠕動運動（消化管の壁内部の筋肉で消化管が太くなったり細くなったりを繰り返す運動のこと）で、これで摂取した食物を先に送り、同時に栄養を吸収します）は弱くなります。蠕動運動は消化管の壁の筋

●●訪問歯科センターって何をしているの？●●

食べるという行為は、生命を維持するための本能の一つです。つまり、口から食べることで、患者様の生活の質を上げる支援をしています。当センターは、川西市歯科医師会会員歯科医師及び、川西市歯科医師会地域歯科衛生士グループ“カミングハーモニ”の歯科衛生士が、高齢や病気などにより、歯科医院に通院できない方や、ご家族からの依頼を受けて、自宅や施設などを訪問し、歯科治療のほか、より専門的な口腔機能回復と維持増進のためのリハビリテーションや口腔清掃を行っています。私達スタッフは、専門機関((一社)TOUCH)と連携し、年数回の研修会、症例検討会、実習を行い、摂食嚥下機能・口腔機能回復の専門性を高める努力をしています。

●●スタッフ紹介●●



一般社団法人川西市歯科医師会 会長
川西市歯科医師会立訪問歯科センター長

藤木 薫

川西市、猪名川町の施設に入居されている方や自宅にお住まいの高齢者の方々より、訪問歯科診療を希望される数が増え、要望にお応えするべく平成24年7月に「川西市歯科医師会立訪問歯科センター」が設立されました。平成25年度の訪問診療・口腔ケア出動回数は月330回、平成28年度には月400回となっており、今年度はさらに増えております。訪問車両も2台でスタートしたものが現在は6台で運営しております。今後も増加傾向にある訪問診療に出来る限り対応できるよう不退職の気持ちを持って頑張りたいと思っております。